

出品目録

特別展「銅鐸とムラー国宝 桜ヶ丘銅鐸をめぐる弥生の営み」

令和7年（2025）7月5日（土）～8月31日（日）



令和7年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業
令和7年度国立文化財機構所蔵品貸与促進事業

- 【主催】神戸市立博物館
【協賛】公益財団法人 日本教育公務員弘済会 兵庫支部
【後援】NHK神戸放送局、Kiss FM KOBE
【特別協力】島根県立古代出雲歴史博物館、
国立文化財機構文化財活用センター、東京国立博物館
【協力】一般財団法人 神戸観光局

- ・各資料の時期は、弥生時代中期を「中期」、弥生時代後期を「後期」と表記しています。
- ・指定等記号表記は、国宝●、重要文化財◎、重要美術品○、県指定文化財△、市指定文化財◇、複製品・復元品※としています。
- ・出品番号と展示順は必ずしも一致しません。
- ・桜ヶ丘3号・11号銅鐸、4号銅戈以外の桜ヶ丘銅鐸・銅戈群は2Fコレクション展示室にて原品展示しています。
- ・本展観覧券で、2Fコレクション展示室もご覧いただけます。

プロローグ

出品番号	指定等	資 料 名	点数	出土地	時期	所蔵・保管機関
1		（写真）桜ヶ丘銅鐸・銅戈出土地	2		昭和39年 (1964)撮影	神戸市立博物館
2		（写真）出土状況の復元	2		昭和39年 (1964)撮影	神戸市立博物館
3		（写真）出土地付近の調査	1		昭和39年 (1964)撮影	神戸市立博物館
4		聞き取り調査による出土状況復元図（部分）	1		昭和39年 (1964)作成	神戸市立博物館
5		『神戸市桜ヶ丘銅鐸・銅戈調査報告書』	1		昭和44年 (1969)刊行	神戸市立博物館
6	●	桜ヶ丘3号銅鐸	1	神戸市灘区桜ヶ丘町	中期	神戸市立博物館
7	※	桜ヶ丘5号銅鐸	1	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館
8	※	桜ヶ丘4号銅鐸	1	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館
9	※	袈裟樽文銅鐸	1	原品：伝香川県	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：東京国立博物館
10		平田篤胤撰『弘仁歴運記考』	1		江戸時代 19世紀	神戸市立博物館

I 章

11	●	加茂岩倉31号銅鐸	1	加茂岩倉遺跡	中期	文化庁(島根県立古代出雲歴史博物館保管)
12	●	加茂岩倉39号銅鐸	1	加茂岩倉遺跡	中期	文化庁(島根県立古代出雲歴史博物館保管)
13	※	加茂岩倉11（12）号銅鐸	1	原品：加茂岩倉遺跡	原品：中期	島根県立古代出雲歴史博物館
14	※	荒神谷1号銅鐸	1	原品：荒神谷遺跡	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：文化庁(島根県立古代出雲歴史博物館保管)
15	※	荒神谷5号銅鐸	1	原品：荒神谷遺跡	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：文化庁(島根県立古代出雲歴史博物館保管)
16	◎	柳沢2号銅鐸	1	柳沢遺跡	中期	中野市立博物館
17	◎	柳沢6号銅戈	1	柳沢遺跡	中期	中野市立博物館
18	●	桜ヶ丘4号銅戈	1	神戸市灘区桜ヶ丘町	中期	神戸市立博物館
19	◎	大岩山1号銅鐸（昭和37年出土）	1	滋賀県野洲市小篠原	後期	滋賀県立安土城考古博物館
20	◎	大岩山3号銅鐸（昭和37年出土）	1	滋賀県野洲市小篠原	後期	滋賀県立安土城考古博物館
21	◎	大岩山4号銅鐸（昭和37年出土）	1	滋賀県野洲市小篠原	後期	滋賀県立安土城考古博物館

II 章

22		森銅鐸	1	神戸市東灘区森北町	中期	東京国立博物館
23		渦森銅鐸	1	神戸市東灘区渦森台	中期	東京国立博物館
24	●	桜ヶ丘11号銅鐸	1	神戸市灘区桜ヶ丘町	中期	神戸市立博物館
25	※	生駒銅鐸	1	原品：神戸市東灘区本山町	原品：中期	神戸市立博物館/原品：国立歴史民俗博物館
26	※	桜ヶ丘6号銅鐸	1	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館
27	◇	堂ノ上銅鐸（流水文銅鐸）	1	芦屋市楠町付近	中期	親王寺
28	○	津門銅鐸	1	西宮市津門	中期	個人蔵
29	※	津門銅鐸	1	原品：西宮市津門	原品：中期	西宮市立郷土資料館/原品(○)：個人蔵
30	◇	本山銅鐸	1	本山遺跡	中期	神戸市
31	◇	北青木銅鐸	1	北青木遺跡	中期	神戸市
32		北青木銅鐸埋納遺構切取資料	1	北青木遺跡	中期	神戸市
33	※	桜ヶ丘14号銅鐸	1	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館

III 章

34	◇	銅鐸鑄型末製品	2	西神ニュータウン内第65地点遺跡	中期	神戸市
35		武器形青銅器鑄型	1	雲井遺跡	中期	神戸市
36	※	桜ヶ丘5号銅鐸（3次元プリンター）	4	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館
37	※	桜ヶ丘5号銅鐸（石膏）	1	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館
38	※	桜ヶ丘12号銅鐸	1	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館
39	※	桜ヶ丘12号銅鐸	1	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館
40	※	1号銅鐸鑄型	1	原品：東奈良遺跡	原品：中期	神戸市立博物館/原品(◎)：文化庁(茨木市立文化財資料館保管)
41	※	銅戈鑄型	1	原品：東奈良遺跡	原品：中期	神戸市立博物館/原品(◎)：文化庁(茨木市立文化財資料館保管)
42	※	銅鐸鑄型	1	原品：上高野遺跡	原品：中期	神戸市立博物館/原品(△)：赤穂市立歴史博物館
43	※	桜ヶ丘1号銅戈	1	原品：神戸市灘区桜ヶ丘町	原品：中期	神戸市立博物館/原品(●)：神戸市立博物館

IV 章

44		弥生土器 壺	2	本山遺跡	中期	神戸市
45		弥生土器 高坏	1	本山遺跡	中期	神戸市
46		石器 石鏃	9	本山遺跡	中期	神戸市
47		石器 石包丁	5	本山遺跡	中期	神戸市
48		石器 太型蛤刃石斧	1	本山遺跡	中期	神戸市
49		石器 柱状片刃石斧	1	本山遺跡	中期	神戸市
50		石器 砥石	1	本山遺跡	中期	神戸市
51		石器 石剣	1	本山遺跡	中期	神戸市

出品番号	指定等	資 料 名	点数	出土地	時期	所蔵・保管機関
52		弥生土器 壺	5	北青木遺跡	中期	神戸市
53		弥生土器 甕	1	北青木遺跡	中期	神戸市
54		弥生土器 高坏	1	北青木遺跡	中期	神戸市
55		弥生土器 台付長頸壺	1	北青木遺跡	中期	神戸市
56		弥生土器 台付鉢	1	北青木遺跡	中期	神戸市
57		木棺材	1	北青木遺跡	中期	神戸市

V章

58		弥生土器 壺	2	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
59		弥生土器 台付壺	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
60		石器 石鏃	6	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
61		石器 打製石包丁	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
62		石器 太型蛤刃石斧片	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
63		石器 柱状片刃石斧	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
64		石器 扁平片刃石斧	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
65		石器 L字状石杵	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
66		石器 石権	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
67		石器 小石刀	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
68		石器 刃器	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
69		石器 石匙	1	伯母野山遺跡	中期	神戸市立博物館
70		弥生土器 器台	1	布引丸山遺跡	中期	個人蔵
71		弥生土器 壺	1	会下山遺跡	後期	芦屋市立美術博物館
72		弥生土器 甕	1	会下山遺跡	後期	芦屋市立美術博物館
73		弥生土器 高坏	1	会下山遺跡	後期	芦屋市立美術博物館
74		弥生土器 鉢	1	会下山遺跡	中期～後期	芦屋市立美術博物館
75		石器 石鏃	6	会下山遺跡	中期～後期	芦屋市立美術博物館
76		石器 磨製石鏃	1	会下山遺跡	中期～後期	芦屋市立美術博物館
77	◇	青銅製漢式三翼鏃	1	会下山遺跡	中期～後期	芦屋市立美術博物館

VI章

78		石器 磨製石戈	1	青谷遺跡	中期～後期	神戸市立博物館
79		石器 石剣	1	青谷遺跡	中期～後期	神戸市立博物館
80		石器 石鏃	2	青谷遺跡	中期～後期	神戸市立博物館
81		石器 太型蛤刃石斧	1	青谷遺跡	中期～後期	神戸市立博物館
82		石器 柱状片刃石斧	1	青谷遺跡	中期～後期	神戸市立博物館
83		石器 削器	1	青谷遺跡	中期～後期	神戸市立博物館
84		弥生土器 器台	1	西神ニュータウン内第65地点遺跡	中期	神戸市
85		弥生土器 ミニチュア土器	2	西神ニュータウン内第65地点遺跡	中期	神戸市
86		石器 石鏃	7	西神ニュータウン内第65地点遺跡	中期	神戸市
87		石器 柱状片刃石斧	3	西神ニュータウン内第65地点遺跡	中期	神戸市
88		石器 円形石杵	1	西神ニュータウン内第65地点遺跡	中期	神戸市
89		石器 石権	1	西神ニュータウン内第65地点遺跡	中期	神戸市
90		弥生土器 壺	1	頭高山遺跡	中期	神戸市
91		弥生土器 把手付壺	1	頭高山遺跡	中期	神戸市
92		弥生土器 高坏	1	頭高山遺跡	中期	神戸市
93		弥生土器 ミニチュア土器	1	頭高山遺跡	中期	神戸市
94		弥生土器 絵画土器	1	頭高山遺跡	中期	神戸市
95		石器 磨製石剣	3	頭高山遺跡	中期	神戸市
96		石器 石鏃	7	頭高山遺跡	中期	神戸市
97		石器 太型蛤刃石斧	2	頭高山遺跡	中期	神戸市
98		石器 柱状片刃石斧	3	頭高山遺跡	中期	神戸市
99		石器 環状石斧	1	頭高山遺跡	中期	神戸市
100		弥生土器 壺	2	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
101		弥生土器 台付長頸壺	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
102		弥生土器 台付壺	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
103		弥生土器 器台	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
104		石器 石鏃	3	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
105		石器 磨製石鏃	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
106		石器 石包丁	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
107		石器 太型蛤刃石斧	1	城ヶ谷遺跡	中期～後期	神戸市
108		石器 柱状片刃石斧	1	城ヶ谷遺跡	中期～後期	神戸市
109		石器 扁平両刃石斧	1	城ヶ谷遺跡	中期～後期	神戸市
110		石器 磨石	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
111		石器 敲石	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
112		石器 砥石	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市
113		石器 剥片	1	城ヶ谷遺跡	中期	神戸市

エピソード

114	※	三角縁唐草文帯四神四獣鏡	1	原品：東求女塚古墳	原品：古墳時代前期	神戸市立博物館/原品：東京国立博物館
-----	---	--------------	---	-----------	-----------	--------------------

※桜ヶ丘3号・11号銅鐸、4号銅戈以外の桜ヶ丘銅鐸・銅戈群は2Fコレクション展示室にて原品展示

出品番号	指定等	資 料 名	点数	出土地	時期	所蔵・保管機関
115	●	桜ヶ丘銅鐸・銅戈群	18	神戸市灘区桜ヶ丘町	中期	神戸市立博物館



銅鐸・銅戈 基礎講座



■ 銅鐸の各部名称

身（鐸身）：本体。各面をA面・B面と区別するが、便宜上の呼び分けであり、表裏の意味を含まない。

鈕：銅鐸の吊り手。時代が下ると吊るして鳴らす役割がなくなり、見せるための装飾性が強くなる。

舞：鈕孔の下端で、身の上端に付く平らな部分。

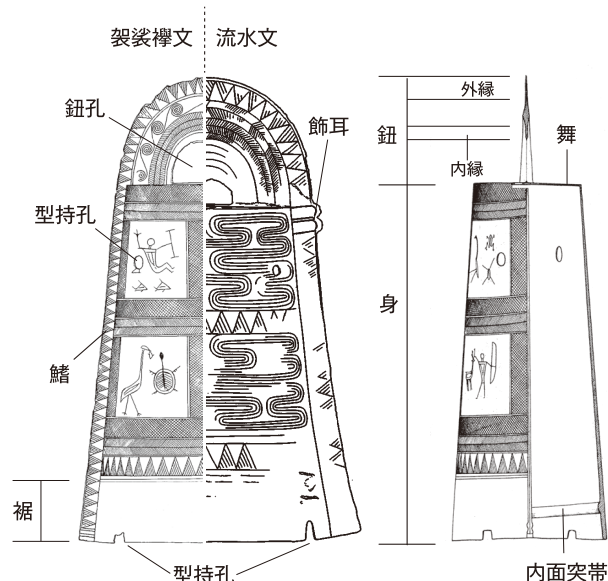
内面突帯：身内側の下端に巡らせた突出部分。摩滅した痕跡は、舌が当たった部分と考えられている。

鰭：鈕から身まで連なる板状の装飾部分。

飾耳：鈕や鰭部分の装飾。突線鈕式の段階で最も発達。

型持孔：銅鐸を製作する際に、鑄型の外型と中型（中子）との間隔を保つための支えを置いた痕跡。鑄型には石製と土製がある。

舌：銅鐸の内部に紐でぶら下げられた棒。内面突帯に当たることによって音が鳴る。青銅製の舌が出土しているが、木製などの舌もあったと考えられている。



銅鐸の各部名称

（桜ヶ丘5号銅鐸・3号銅鐸 桜ヶ丘銅鐸・銅戈調査委員会1969『神戸市桜ヶ丘銅鐸・銅戈調査報告書（解説篇）』を加工）

■ 銅鐸の型式

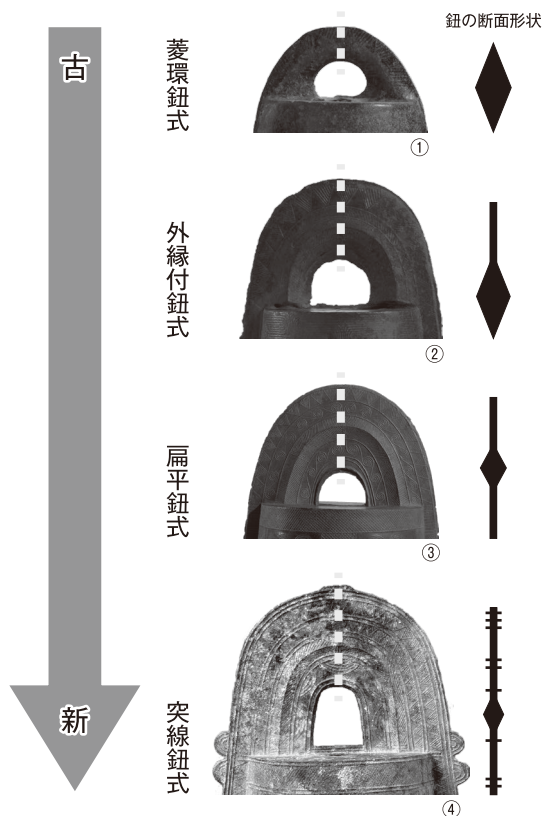
銅鐸は鈕の形状、および断面の変化から4つに大別され、それぞれで細分化されている。時代が下るとつれ、装飾用の縁が大きくなる。

菱環鈕式：鈕の断面が菱形で厚みがある。身に反りがない、または寸胴のような形が1式、裾にかけて広がる形が2式と分けられる。

外縁付鈕式：鈕の外側に装飾のための縁をもつ。舞部分の型持孔が1つは1式、2つは2式と分けられる。

扁平鈕式：鈕の内側にも装飾用の縁をもつ。石製鑄型の古段階、土製鑄型の新段階に分けられる。

突線鈕式：鈕の扁平化と装飾化がさらに進み、文様帯を区画する突線を用いる。古い順に1式～5式と分けられる。銅鐸の大型化は2式以降に進むため、菱環鈕式～突線鈕式1式までは「聞く銅鐸」、突線鈕式2式以降は「見る銅鐸」と呼ばれている。2式以降は、近畿地方を中心に分布する銅鐸（近畿式）と東海地方を中心に分布する銅鐸（三遠式）の2種類の銅鐸が製作される。



①荒神谷5号銅鐸（部分）島根県埋蔵文化財調査センター提供 ②桜ヶ丘1号銅鐸（部分）
③桜ヶ丘6号銅鐸（部分） ④大岩山4号銅鐸（部分）滋賀県立安土城考古博物館提供

銅鐸の型式と鈕の変化

■ 銅鐸の文様

縦帯・横帯：縦または横方向に帯状に施す文様。帯のなかには斜格子文や綾杉文、渦文など多様な文様がある。

突線：縦帯や横帯よりも高く凸状に飛び出た線。

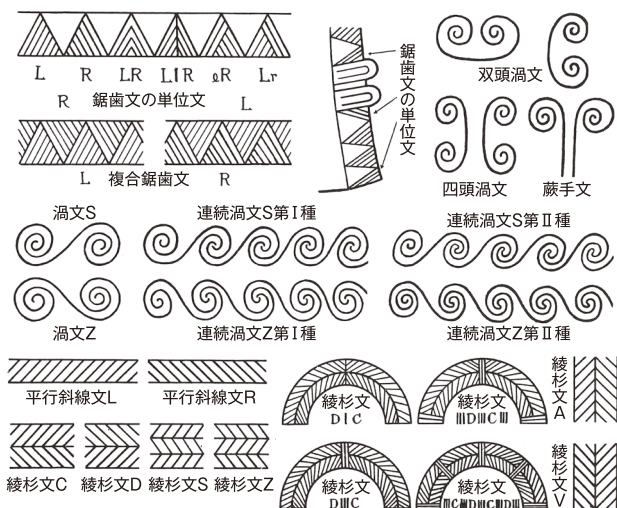
綾杉文：中心の直線を軸として、左右に下向きの平行する斜め線を連続して施した文様。

渦文：渦巻き状の文様。2つの頭を持つ「双頭渦文」、双頭渦文が2つ背中合わせになった「四頭渦文」、2つの線が下から上に延びて左右に分かれて対照的な渦文となる「蕨手文」、渦文を連続させた「連続渦文」などの種類がある。

鋸歯文：鋸の刃のように三角形がいくつも並ぶ文様。鋸歯文を向かい合わせに組合せた文様を「複合鋸歯文」という。

袈裟襷文：身を区画するように施される縦帯および横帯、または突線で構成される文様。僧侶が着る袈裟の文様に似ていることから名づけられた。区画数により四区袈裟襷文と六区袈裟襷文に分けられる。

流水文：水の流れのように、3本以上の平行する直線と曲線の繰り返しであらわされた文様。



銅鐸の文様 (佐原真2002『銅鐸の考古学』より転載・一部加工)

■ 銅戈の各部名称

茎(内)：柄に取り付けるための接続部分。

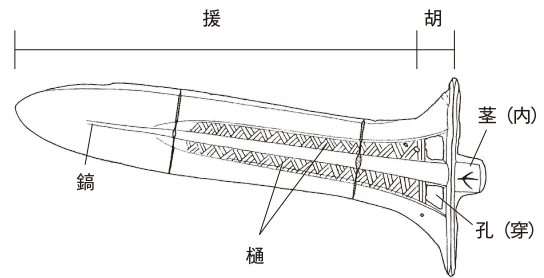
援：刃にあたる部分。

孔(穿)：紐を通し、柄に巻き付けて固定する部分。

樋：表面にある2本の溝。

九州型：北部九州地域を中心に分布。樋の溝先が閉じて綾杉文があらわされた中細形銅戈。

大阪湾型(近畿型)：大阪湾岸地域を中心に分布。樋の先が開いて鋸歯文があらわされた銅戈。



銅戈の各部名称

(桜ヶ丘4号銅戈 桜ヶ丘銅鐸・銅戈調査委員会1969『神戸市桜ヶ丘銅鐸・銅戈調査報告書(解説篇)』を加工)

■ 銅鐸の年代

銅鐸は、使用された時期を判断する基準となる土器などを伴わないため、年代の判断が難しい資料である。文字による記録がない時代の実年代の把握は困難で、炭素14年代測定法など有機物を利用した科学的調査が行われているが、資料ごとに大きな差があるため現在も揺れ動いている。しかし、発掘調査事例の増加などから研究は進んでいる。実年代はおおよその指標として、本展では下図の通りとする。

時期	銅鐸の型式	
紀元前400年	前期	前葉
	菱環鈕1式	
	菱環鈕2式	前半
紀元前100年	中期	中葉
	外縁付鈕1式	
	外縁付鈕2式	
	扁平鈕式古段階	
	扁平鈕式新段階	
紀元1年	後期	後半
	突線鈕1式	
	突線鈕2式	後葉
	突線鈕3式	
	：	末期

銅鐸の型式変遷および時期の区分